

執筆者紹介

勝俣 達也 本学人間科学部准教授
増田 純一 本研究所客員研究員

〈編集後記〉

今号は、勝俣達也所員の「生産・流通構造の再編に向き合う横編ニットメーカーの試みとその構造的位置づけ」と題する論稿と、増田純一客員研究員の「導入時期における柔軟な主題設定の重要性—主体的な歴史学習を促すために—」と題するノートの2本を掲載した。

勝俣所員の「生産・流通構造の再編に向き合う横編ニットメーカーの試みとその構造的位置づけ」は、国産のニット産業が、アパレルメーカー主導のOEM生産全盛が去った1980年代以降急速に縮小したものの、2000年代前半にはOEM生産から脱却して新しい試みが見られるようになったとして、どのような実際になっているのかが調査事例の紹介と分析によって整理されている。

増田客員研究員の「導入時期における柔軟な主題設定の重要性」は、高等学校の歴史学習で導入教育を有意義に行うことが重要であるとして、現在使われている教科書の検討が行われている。

そういえば、以前テレビで、日本の質の良いアパレル素材や技術が消えてしまうのは惜しいので、ネットワークを作って工場直結のメイド・イン・ジャパンのブランドとして復活させようという試みを紹介した番組を見て、内心エールを送ったことを思い出した。

さて、編集の担当者会議で、執筆要項ほど厳格なものではないにしても、何かしら執筆時の参考になるものがあつた方がよいのではないかという意見が出されている。さしあたり年報(=月報ではなく)用のものを作成してホームページに載せた。月報執筆においても、よろしければ参考にさせていただきたい。

最後に、表紙の一部が若干変わったのだからお気づきだろうか。「専修大学社会科学研究所月報」に当たる英語タイトルが今までやや簡素だったので、専修大学の社研の月報であることが明確になるように、「The Monthly Bulletin of the Institute for Social Science Senshu University」とした。ちなみに今までは「The Monthly Bulletin of Social Science」だった。(H.H)

2017年6月20日発行

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1番1号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

The Institute for Social Science, Senshu University, Tokyo/Kawasaki, Japan

(発行者) 宮 寄 晃 臣

製 作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前2-10-2 電話 (03)3404-2561
